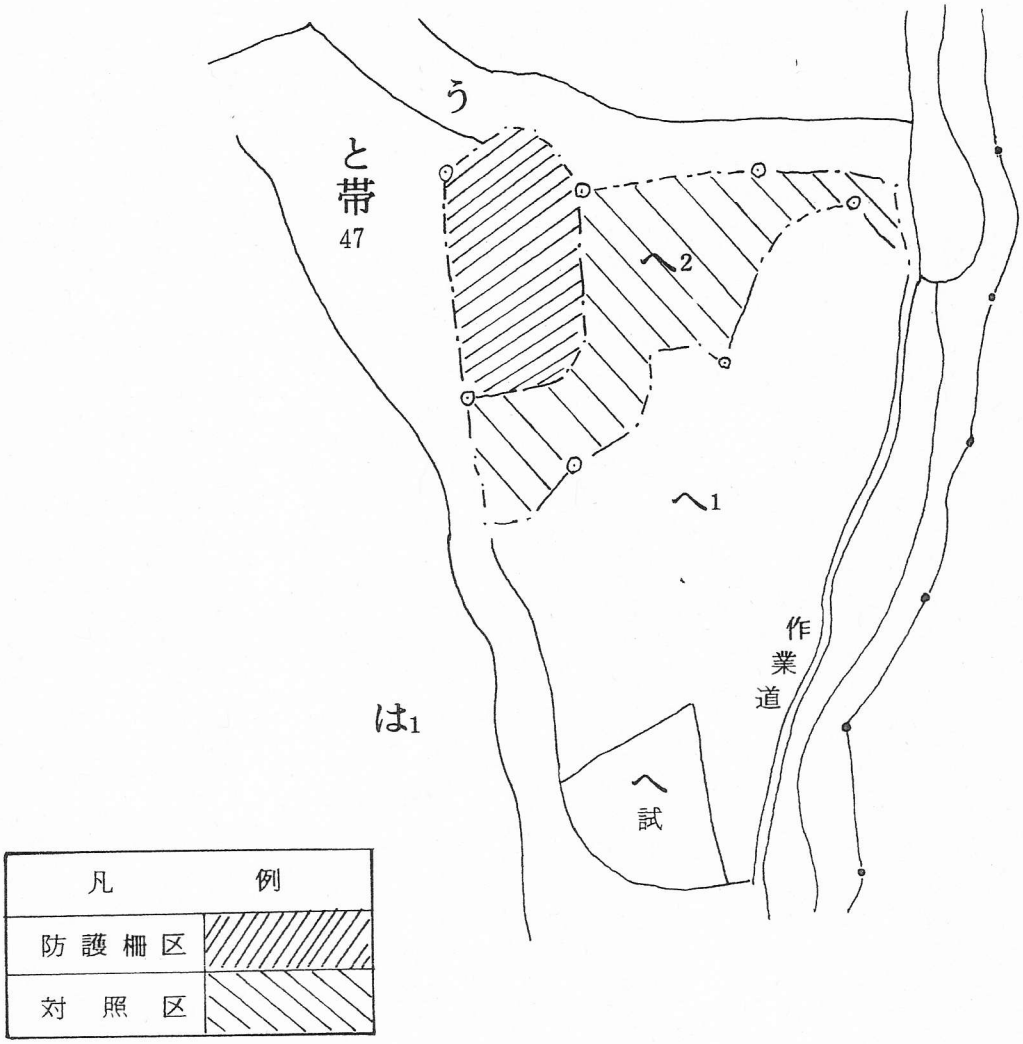
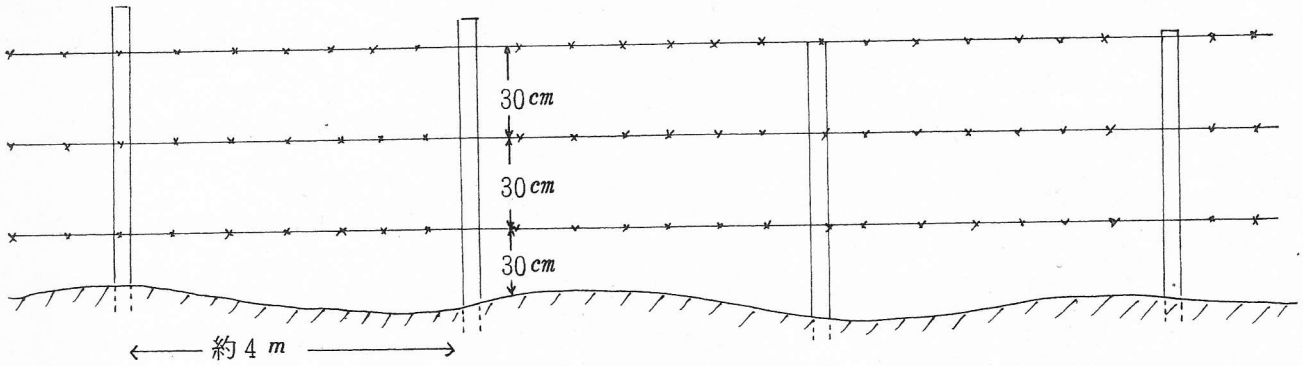
図－1　　試　験　地　位　置　図



図－2　　有　刺　鉄　線　設　置　図



3. 調査結果

(1) 年度別被害調査

表－1

年度	調査本数	対照区				試験区			
		芯	枝・皮	計	被害率	芯	枝・皮	計	被害率
59	100	40	4	44	44%	20	3	23	23%
60	100	49	1	50	50	10	0	10	10
61	100	51	2	53	53	0	0	0	0

試験区の59年度，60年度は有刺鉄線に「たるみ」ができた箇所から侵入して被害を与えたものである。

有刺鉄線を補強してから被害はなくなった。

対照区の被害は保護樹帯の近くと地形の良い箇所に多く発生している。

(2) 時期別被害調査

表－2

年度	調査本数	対照区				試験区			
		4－8月	11－12月	計	被害率	4－8月	11－12月	計	被害率
59	100	0	44	44	44%	0	23	23	23%
60	100	1	49	50	50	0	10	10	10
61	100	3	50	53	53	0	0	0	0

(3) 施設に要した経費

（*ha*当り経費）

労　賃　127,600円，　物件費　78,657円，　計　206,257円

4. 考　　察

被害の発生環境としては，周囲に保護樹帯など天然生広葉樹林がある周辺，及び平坦地など比較的地形の良い箇所に多く発生している。

また，時期別では，植生の繁茂旺盛な春から夏期にかけては被害はなく，餌の少なくなる秋から冬期，特に雪積時に被害が多く発生している。

有刺鉄線の防護柵（高さ1.5 m以上，鉄線巾30cm以内）を施設することにより被害の発生は防止できることは確認できたが，施設に要する経費がha当り20万円以上を必要とすることから，高冷地の被害発生地については皆伐，人工造林をできるだけ避け，択伐天然更新など森林施業の面から対処した方がよいと思われる。